ショートスティ in シンガポール

報告書

2024 年 1 月

NPO リトル・クリエイターズ

〒107-0062　東京都港区南青山 2−2−15−1403

Tel. 03+6869-7282
Email. contact@littlecreators.jp
www.littlecreators.jp

はじめに

2023 年 12 月 26 日から 2024 年 1 月 2 日まで、児童養護施設 聖園(みその)子供の家（神奈川県藤沢市）の高校生 2 人をシンガポールでの短期滞在プログラムに招きました。この経緯については後述しますが、多くの方々のご支援、ご協力なくしては決して実現できるプログラムではありませんでした。

このプログラム案にすぐに賛同をして受け入れ先となってくれたシンガポールの文化教育施設 10 スクエア、ホスト・ファミリーとなってくださった Joyce Ng 様とそのご家族、Yunis Lee 様とそのご家族に、先ずもって心よりの御礼を申し上げます。滞在期間中、参加者 2 人を心から歓迎し、受け入れ、導いて下さいました。同じく、このプログラムをチャンスと捉え快く参加者を送り出してくれた聖園子供の家の施設長 野際様、杉原様ほかスタッフの皆様にも感謝を申し上げます。聖園子供の家での私どもの十数年に渡るワークショップ活動に、信頼をおいてくださったものと嬉しく思っております。そして、ユニバーサル・スタジオ・シンガポールの入園チケットを提供くださった湘南ドリームプロジェクトの永井様、初めての海外旅行に負担が少ないようにとお力を貸してくださったスペースワールドの加藤様、参加者にとってより効果的なスティになるようにと知恵を授けてくださった Mary Soh 様、その他たくさんの方々のご支援、ご協力に、この場を借りて御礼申し上げます。

そして 10 スクエアを傘下に置く企業体ザ・ライス社（TRCL）の代表である Colin Goh 様、長くにわたる貴方との友情なしには何も始まりません。ありがとうございます。シンガポールと日本の架け橋の一助となるように、そして未来の子どもたちのために今後も貴方との共同作業が続くことを切に祈っています。

リトル・クリエイターズ

COVID-19 パンデミックの時代を経て、またウクライナとロシア、パレスティナとイスラエルの紛争、地球温暖化による気候変動、災害などにより経済状況が落ち込む中、日本では思考、行動のベクトルが内側を向いている様相だ。一方で、この間に、経済に限らず何事も国内だけでは完結しない事が証明された。世界の中での立ち位置を常に意識していないと、国や人の生活が成り立たなくなっているのも、また事実である。

では、これから世界はどう変化していくのか。閉鎖的な社会からは、過去にそうであったように、必ずそれを打破する力、潮流が生まれる。その時に若者に求められるのはクリエイティブ・レジリエンスではないだろうか。急激な世界の変化に順応し前進できる技能（スキル）と精神力を持つ次世代を育む一助となるように活動するために、我々は一体何に取り組めばいいのだろうか。

経緯

NPO リトル・クリエイターズは、恵まれない環境におかれた子ども（18 歳以下）が自分を表現し、人と出会い、交流する機会を得て、見えない障害を乗り越えて社会を生きていくための「夢」や「智慧」や「力」を育む手助けをしようと活動してきた。

シンガポールをはじめとするアジア各国の同じ志を持つ組織と手を組み、アート（表現、創作）をツールに色々なプログラムを開催してきた。中でも『チャイルド・エイド・アジア』コンサート・シリーズでは、音楽的才能がある子ども、海外の子ども、児童養護施設の子どもが環境や言葉の壁を超えて共に舞台を作り、経済的にも子どもが子どもを助ける仕組みを作り上げた。このコンサートに携わった子どもの中には、その後、新たなチャンスや転機を得た者も多い。そのうちの一人は『チャイルド・エイド・アジア』への出演を最後に家庭の事情でバイオリンを諦めるところだったが、コンサートでその才能を認められ、TRCL の協力を得てシンガポールで開催された同趣旨のコンサートに出演。短期語学留学を経てシンガポール大学に進学した後、現在はバイオリニストとして活躍している。他にも、リトル・クリエイターズのネットワークで、シンガポール、マレーシア、インドネシアでの演奏経験を積み活動の場を拡げることができた者も少なくない。

このような経験から、リトル・クリエイターズでは青少年が短期でも海外で過ごして視野を広げることで、未来への希望を自らの目標に変えることができると確信し、児童養護施設で生活する高校生がシンガポールでショートスティを行う当該プログラムを立ち上げた。

プログラム概要

参加者：　児童養護施設 聖園子供の家の高校 1 年生（16 歳）女子 1 人、男子 1 人

渡航先：　シンガポール

渡航期間：　2023 年 12 月 26 日　羽田発、シンガポール着

2024 年 1 月 2 日　シンガポール発、成田着　全 7 泊 8 日

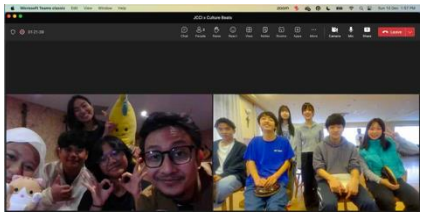
ホスト・ファミリー：　Joyce Ng 家, Yunis Lee 家

共催（受け入れ先）：　10 スクエア（シンガポール）

主催：　NPO リトル・クリエイターズ

プログラム準備概要

2023 年	1-2 月	プログラム企画、構想
	3 月	シンガポール TRCL との交渉開始
	4 月	聖園子供の家への提案
	7 月	参加者決定（選考は聖園子供の家）、事前アンケート
	9-11 月	参加者渡航準備（パスポート取得、保険加入など）
	11 月 14 日	参加者への説明会①（主催・共催、概要、目的、シンガポールについてなど）
	11 月 22-26 日	プログラム最終調整のため、リトル・クリエイターズ　渡星
	12 月 3 日	ホスト・ファミリーへの説明会
	12 月 5 日	参加者への説明会②（飛行機の乗り方、入国、日程についてなど）



	12 月 10 日	シンガポールとのオンライン交流会 10 スクエア中高生と「Culture Beats」(主催：10 スクエア 助成：シンガポール日本商工会議所)開催。マレーの伝統的な太鼓 Kompang の演奏方法を習い一緒に演奏。
	12 月 19 日	参加者への説明会③（ホスト・ファミリー紹介、宿題と報告会について）
	12 月 26 日	参加者　渡星
2024 年	1 月 2 日	参加者　帰国
	1 月 6 日	参加者　報告会準備
	1 月 21 日	参加者　報告会

参加者に与えた課題

1.　英語の勉強

渡航前に、英単語学習用アプリ MIKAN と AI 英会話学習用アプリ Speak Buddy を提供。興味が続くようであれば、高校卒業時まで両アプリの使用を支援することを約束した。

2.　シンガポール滞在中に以下の項目を意識しながら日記をつけること

・　その日にあったことだけでなく、思い出になるようにお菓子の袋や飛行機の切符を貼り付ける。

・　出会った人にコメントや名前を書いてもらう。

・　帰国時の報告会で、次にシンガポールに行けるかもしれない後輩に何を伝えたいかを意識する。

3.　渡航中の注意事項は、**我慢をしないこと**。

食べ物、生活習慣、体調など、自分が嫌だと思うこと、辛いと感じることがあれば、ゼスチャーや翻訳アプリを駆使して主張するよう伝えた。

プログラム内容/渡航中の行動

12 月 26 日	午後	到着
27 日	午前	10 スクエアの青少年と交流
	午後	10 スクエアの青少年と観光
		- サルタン・モスク
		- 文化スペースや店舗が並ぶブギス地区を散策
		- シンガポール・ナショナル・ギャラリー
28 日	午後	10 スクエアの青少年と観光
		- 初代首相リー・クワン・ユー生誕 100 年記念体験型展覧会
		- ガーデン・バイ・ザ・ベイ
		- エスプラネード
		オーチャード・ロード散策
		ガーデン・バイ・ザ・ベイ
	夜	- フラワー・ドーム
		- スーパーツリー展望
		- クリスマス・ワンダランド
29 日	午後	10 スクエアの青少年と観光
		- マンダイ動物園
30 日		ホスト・ファミリーと過ごす
31 日		ホスト・ファミリーとユニバーサル・スタジオ・シンガポールへ
	夜	ホスト・ファミリーとカウント・ダウン
1 月 1 日		ホスト・ファミリーとそのご親族と過ごす
2 日	午前	出発

参加者は期間中全て、Mrs. Joyce Ng と Mrs. Yunis Lee のご家庭に滞在。

参加者からのフィードバックとプログラム報告会

1 月 2 日、空港で参加者を出迎えた時の第一声は以下の通り。

- 滞在期間が長かった。3 日くらいでいいかもしれない。
- 楽しかったけれど、親族が多く集まる時期は気を遣ってしまうし、どうしていいかわからない。夏休みや春休み期間中の方が良いのかもしれない。
- みんなが良くしてくれるので、日本から大人が付き添う必要はない。
- 英語が少し聞けるようになった。
- ご飯は美味しかった。（と発言した 1 人は、寿司やマクドナルも食べさせてもらっていた。）
- ご飯があまり合わなかった。（もう 1 人は、せっかくシンガポールへ行ったからと頑張ってシンガポールの食事をしたが、好きなものと苦手なものがあった、とのことだった。）

1 月 21 日に開催された報告会は、事前にリトル・クリエイターズが提供したパワーポイントのフォーマットに写真とコメントを入れ、それを読み上げる形で行った。聖園子供の家のスタッフのほかに、小学生から高校生まで施設の入所者も参加者の報告を聞いた。参加者の発表資料は、本校酷暑の最後に添付する。（一部間違いがあるが、ここではそのまま添付する。報告会参加者には説明済み。）報告会の最後に、出席していた入所者に同じようなプロジェクトがまた企画されたら参加したいか問いかけたところ、10 人近くの子どもが手を挙げた。

ホスト・ファミリーからのフィードバック

ホスト・ファミリーへは、事前に以下について説明、理解をいただいた。

- リトル・クリエイターズの活動について
- 日本の脆弱な環境に置かれている子どもの状況と児童養護施設、聖園子供の家について
- ホームスティの目的：１）参加者がホームスティを楽しみ、色々な新しいことを経験すること

  ２）参加者が視野を広げること
- 参加者の紹介と滞在中の予定
- Colin Goh 氏の言葉を借りて “Shower them with love”

1. 準備に関して。参加者がシンガポールに行く前に、もっと ZOOM セッションを行うべきか。

   参加者について、他にどのような情報を提供しておくべきだったか。

(ア)　リトル・クリエイターズとの数回のオンライン会議は、有効だったと思います。

また、リトル・クリエイターズ、子ども、ホストのために企画された 3 者会議は有意義でした。シンガポールへの旅に先立ち、ホストが子どもに会うことができ、また双方が質問しあうことができました。

(イ)　旅の前にもう少しオンライン会議があるといいと思います。預かるお子さんの情報が欲しいです。

2. プログラムの期間とタイミングに関して。 長いか、短いか。春が良いか夏が良いか。

(ア)　理想的な滞在期間だったと思います。

(イ)　1 週間は良いと思います。シンガポールは四季がないので、渡航が春だろうが夏だろうが関係ありません。ただ、時期についてもホスト・ファミリーともっと話し合いができると良いでしょう。例えば、シンガポールのお祭りの時期に訪問して、子どもたちに体験してもらうというのも良いかもしれません。

3.　10 スクエアのプログラムへの ご意見・ご感想。

(ア)　なし

(イ)　10 スクエアで作ってくれた計画はとても良いと思いますし、上手に組まれています。

4.　シンガポールでのショートステイ NPO 法人リトル・クリエイターズへのご意見・ご感想。

(ア)　日本語が話せないので、コミュニケーションに苦労しました。両者とも google 翻訳に頼っていたため、コミュニケーションが途切れることがありました。子どもの渡航準備のなかで英語学習にもっと重きをおいて、シンガポールへ来たら話したくなるようにするといいかもしれません。そうすることで、もっとシンガポールに来たいという思いを強くするかもしれません。

ホスト・ファミリーにはそれぞれのライフ・スタイルがあります。例えば、辛いものを食べるか、辛くないものを食べるか、早く寝るのか、遅く寝るのか、朝食、昼食、夕食をとるのか、家族の人数はどのくらいか、などです。このような情報は、子どもがその家庭に入る前に気持ちの準備をするのに役立つかもしれません。

(イ)　なし

10 スクエアからのフィードバック

1. 準備に関して。参加者がシンガポールに行く前に、もっと ZOOM での交流を深めるべきか？参加者について、他にどのような情報を 10 スクエアに提供すべきか。

シンガポールと日本の生徒とスタッフが顔を合わせお互いのことを知ることができるよう、Zoom での交流を増やすことは有効です。おそらく 30 分程度の短い交流で、3 回程度が良いでしょう。

今回事前に提供された情報は非常に適切で、シンガポールに来た参加者の性格などを先取りするのに役立ちました。

2. プログラムの期間とタイミングに関して。 長いか、短いか。春が良いか夏が良いか。

シンガポールでの 1 週間は長すぎず短すぎず、参加者が将来シンガポールまた帰ってきて、訪ねてみたいと思うところがいくつか残る、ちょうど良い期間です。シンガポールの気候は月によってあまり変わりませんが、訪れるのには気候がやや涼しくなる 11 月が一番良いでしょう。また、クリスマスや新年などの大型連休は、人混みがすごいので避けた方が無難かもしれません。

3. シンガポールと日本の参加者は、交流を盛んにできると思うか。

シンガポールと日本の生徒たちは交流できると思います。お互いの異なる生活や文化について学ぶことがたくさんありますし、経験について分かち合うこともできます。私たちが関わっている生徒のほとんどは旅行する機会がないため、このような交流を通じて関係を育むことで、生徒の世界観を広げ、視野を広げることができるでしょう。

TRCL 傘下のアカデミー（リトル・アーツ・アカデミーと 10 スクエア）[1]は芸術に焦点を当てたアカデミーであるため、両国の受益者にとって、ダンス、音楽、演劇、視覚芸術など、さまざまな芸術形式を学ぶことは有益だと思います。

4. このプログラムをどのように改善・変更すればよいか。来年も同じプログラムを実施するとしたら、何か提案したいことはあるか。

今年のプログラムはスタートとしては良いと思います。シンガポールの若者たちも、交流を通して 2 人の参加者から恩恵を受け学ぶことができたと話していた。両者の間で相互の分かち合いが行われており、これは良いスタートだと考えています。その上で、今後の交流をより良いものにするために以下 2 点を提案します。

a. 両グループの生徒の間でオンライン・シェアリング・セッションを行い、それぞれの言語で共通のフレーズを共有する。

b. ホスト国へ行く生徒が楽しみにしていることを分かち合えれば、計画の助けになる。

10 スクエアの生徒の中で Rey さん, Syukrina さん, Inani さんの 3 人が、事前のオンライン交流会に続いて滞在期間の最初の 3 日間、参加者に付き添って交流、観光、買い物、食事を共にしてくれた。また、この場を借りて Lynn 様、Santhiya 様、Fernandez 様、Shazna 様、Atikah 様、10 スクエアのスタッフに御礼申し上げたい。そして Emma 様、お力添えありがとうございます。

[1] リトル・アーツ・アカデミーは児童対象、10 スクエアは青少年対象。当該プログラム参加者はリトル・クリエイターズのワークショップやコンサートで、過去にリトル・アーツ・アカデミーとの交流プログラムに参加した経験がある。

聖園子供の家のフィードバック

参加者をいつもお世話し、見守っている複数のスタッフから回答を得た。ご回答いただいたまま、ここに掲載する。

1　準備期間

1.1　パスポートなど必要書類を揃え、必要な手続きをすることは大変だったか？もし同じことをするなら準備を始めるのを早めた方がいいなど改善すべき点、あるいはここの部分はリトル・クリエイターズにやってほしいということはあるか。

・　パスポート申請と言うよりは、渡航に際して親権者の同意が必要な為、在園児全てのお子さんがすぐに同意が取れるとは限らないため、少しでも早めに情報があるとアプローチできるかと思います。また、参加者の状況では、今回参加児童の１人は学校終了時間後にパスポートセンターへ行っても申請時間に間に合わなかったため、申請する日がなかなか決まらなかった。

・　準備期間に関しては、早ければ早いほど動きやすくて職員は助かると思います。

・　本人たちは初めての体験で大変だったと思いますが、シンガポールのことを調べながら職員と準備をしていたので特に期間は問題ないと思いました。

1.2　事前にホスト・ファミリーともっと接触しておくべきだと思うか。参加者だけでなく、聖園のスタッフがホスト・ファミリーとコミュニケーションをとる必要はあるか。

- ホスト・ファミリーと職員とのコミュニケーションは大丈夫ですが、ホスト・ファミリーの情報については子どもたちに教えてもらえると安心だと思います。（ZOOM などで自己紹介するなど・・・）
- 何かあったときのためにも、職員とホスト・ファミリーとコミュニケーションはあった方がいいと思います。
- 子どもとホスト・ファミリーは、もっと交流を作る機会があればよいと思います。

1.3　事前に参加者に、もっと教えたり、知らせたりしておいてほしかったことなどはあるか。

- ホスト・ファミリーの家族構成だったり人となりだったりを今回教えていただきイメージがつきやすかったと思うので、ホスト・ファミリーの家庭状況が分かると安心だと思います。また、滞在期間中のスケジュールが大枠でも分かると安心だと思います。
- 行く国のルール、宗教のことについては知っておいた方が良いと思いました。

2　渡航

2.1　今回は 2 人とも高校生なので、2 人で飛行機に乗ってシンガポールへ行ったが、誰かがついていく方がいいと思うか。ついていく場合、ホームスティではなくて、ホテルで付き添いと寝泊まりするようにし、日中だけシンガポールの子供、大人と交流するプログラムも考えられる。どちらが良か。

- 参加メンバーの構成にもよるかと思います。小さい子や不安が高い子の参加であれば、誰かが一緒でもよいと思います。今回は高校生という事もあり、ずっとホスト・ファミリーにお願いしていますが、それもよい経験だったと思います。
- 今回はしっかりとした高校生だったので大丈夫だったと思いますが、今後行く予定の子によっては職員の同行が必要と思う。同行の場合はホテルが良いと思います。
- 今回はメンバーが良かったと思いますが、心配な子は付添いが必要と思います。その際は職員も同行できればと思います。

3 プログラム

3.1 今回は、前半は 10 スクエア、後半はホスト・ファミリーと過ごした。何かプログラムの内容について、気になった点、改善すべき点、希望する点などのご意見。

- 10 スクエアの参加も良い経験となっているようです。
- プログラム、泊数は良いのですが、年末年始でなければ良いのではと思いました。

3.2 英語をほとんど話さない状態でシンガポールへ行きましたが、英語学習あるいは学習一般に対する参加者の姿勢は変わったか。

- 学習意欲にはまだつながっていませんが、英語での返事や単語は出る様になりました。
- 帰国当初の勇斗君は英語に対する姿勢や意識は高かったですが、時間が経つにつれて意識が低くなってしまったように見える。
- 姿勢は変わっていないように思いますが、もっと勉強すればよかったという思いはあるようです。

3.3　シンガポールへ行って、何が 2 人にとって良かったか、何が悪かったか、変化はあったか。

・　すべての経験が初めてのことで良かったと思います。職員の家以外の「家」に外泊をしたことがない子たちなので、文化の違いだけでない「家」の違いに驚いていました。

・　普段と違う環境に行ったので、自分だけでなく周囲の人に気を遣うことができたと思う。聖園のありがたさを改めて知ってくれたのは良かったです。

4　報告会

4.1　日記を雑記のように自由に書くことをショートスティ中の宿題にた。参加者はちゃんと対応できた様子か。ご感想、ご意見。

・　思っていた以上に書けていたと思います。

・　しっかり作成ができていたように見えましたが、内容が一部薄くなり、発表の際には他の質問をされて困っていたようだ。

・　あまりきちんと取り組んでいなかったようです。でも、少しでも書こうとしていたようではありました。

4.2　報告会での参加者の発表の評価。また、何か違う報告の仕方が良いなどのご意見。

・　資料作成はかなり職員の手が必要でしたが、皆さんの前で発表する姿は、感動しました。パワポでの資料報告は分かりやすくてよかったので、もう少し時間があると、資料作成も本人たちも頑張れたかと思いました。

- 初めて今回のような報告会を行ったと思いますが、パワーポイントを使いこなし、プレゼンができていたところに成長をかんじました。
- 参加者の一人はリトル・クリエイターズに手伝ってもらい、報告会ではそのまま読む。アドリブみたいなところもありました。もう一人も良い報告になったと思います。発表の仕方（流れや雰囲気）が事前にわかるとよかったと思いました。

5 今後

5.1 今後もこのようなプロジェクトをやるべきか、率直なご意見。また他にこんなことをしてほしい、ということがあればご記入ください。

- 今後も子どもたちにショートスティの機会を与えていただけるのであればお願いしたいです。
- このようなプロジェクトをやっていただけると、子どもは経験になります。子によっては事情により叶わない子もいますが、チャンスがあれば席を知ってもらいたいです。
- 報告会を聞くことも良い体験となります。誰かに体験を説明する難しさや、大変さなど経験が必要です。また、聴く側は「今度は自分が」という希望に繋がるのではないかと思いました。

今後の課題と展望

1. 宿泊先

今回は Colin Goh 氏のお力添えで、素晴らしいホスト・ファミリーに巡り合うことができた。が、ホスト・ファミリーになることは大変な労力がかかることであるし、候補家庭を見つけるのはその方達の Goh 氏への信頼に頼るしかない現状である。今後、このプログラムを持続するためには、属人的にならない仕組みが必要であり、宿泊先については、ホームスティだけでなく、ホテル滞在やハイブリット方式も視野に入れて企画したい。

2. 渡航時期

年末は行事が多い時期で楽しい側面はあるものの、休暇中で 10 スクエアでの授業がない時期でもある。同世代との交流をさらに密にするため、10 スクエアの授業に参加することも考えて、渡星時期を再度検討したい。

3. 語学研修

今回は英語の勉強について、携帯の学習アプリを提供するにとどまったが、事前に対面で英語研修を行うなり、渡航までに目標をクリアしていく仕組みを構想しても良いのかもしれない。また、この工程で 10 スクエアの高校生に加わってもらうことを検討すべきかもしれない。

4. 交流方法

海外の同世代とより深くつながるために、渡星だけでなく、海外の同じような環境の子どもを日本で迎えて交流する企画も並行して考えていく。

おわりに

リトル・クリエイターズを法人登記（2009 年 11 月）する前の 2008 年から 3 回にわたって、児童養護施設の小学生をシンガポールに招く『国際こどもアート・フェスティバル』を開催しました。スポンサー探しをしていた時「なぜ私の子どもを海外に連れていけないのに、施設の子どもを海外に送るための支援をするべきなのか」と問いかけられたことを時折思い出します。その時も、そして今も、私たちには明確な答えはありません。ただ、脆弱な立場で社会に出ていかなければいけない子どもたちが「アウェイ」の環境で過ごしてみることで、何かに挑戦することへの勇気と自信を培い、今いる世界とは違う世界にも可能性があることを肌で感じ、未来に向けて自ら道を拓くきっかけを得ることができると考えています。これは本人にとってだけではなく、社会にとっても有益なことではないでしょうか。そして普通の家庭の子どもにないチャンスが、施設の子どもにあっても良いのではないかとも思っています。「施設にいる子どもだから諦めなくてはいけない」という言葉にはしないけれど潜在的にある考え方に終止符を打てるように、リトル・クリエイターズでは施設の子どもたちを応援していきます。

心の底では、当該プロジェクトの参加者にとって、シンガポールでのショートスティが楽しい思い出になれば、それだけで十分とも思っています。

リトル・クリエイターズ

リトル・クリエイターズの活動にご賛同いただけるようでしたら、ぜひご寄付をお願いいたします。お預かりするご寄付は全て、恵まれない環境におかれた子どもの為に役立てます。

寄付専用口座

三井住友銀行　新宿支店

（普通）*4145884*

トクヒ）リトル・クリエイターズ

コングラント・サイト

（クレジットカードでのご寄付が可能です。）

ショートステイ
in Singapore

2023年12月26日～2024年1月2日

聖園子供の家　NPOリトル・クリエイターズ　The RICE

Little Creators

Host Family

ユニスさん、グウェンさん、デニスさんの3人家族。ユニスさんは、一家のお母さん。気遣いが出来る方で、困っている時でも私に娘のように接してくれて、とても良い人でした。グウェンさんはお嬢さんで、ピアノを一緒に弾いたりリクエストすると演奏してくれたり、また日本語で話しかけてくれたり、とても良い方でした。お父さんのデニスさんはチキンライスを食べたら美味しいよと教えてくれて、食べさせてくれました。本当に美味しくて良かったです。

また、デニスさんはナイキの靴を買って下さって、とても嬉しかったです。そして、お年玉を日本円でくれました。その他、ユニスさんは私が買いたいと言ったものをたくさん買ってくださって、とても幸せでした。

Food & Drink

デニスさんが食べさせてくれたチキンライス。シンガポールのチキンライスと日本のチキンライスは全然違いました。日本のチキンライスは、具材とケチャップとご飯が混ざっているのですが、シンガポールのチキンライスはチキンはチキン、ご飯はご飯で混ざっていません。しかも日本はソースがないのですが、シンガポールは3種類ソースがあって、そこが日本とシンガポールのチキンライスの違うところだと思いました。3つのソースは、チリソースと、甘いソースと、生姜が入った中辛のソースでした。日本のものとは全く違うおいしさで良かったです。

バナナ。シンガポールのバナナは日本と違って長さが短いけれど、本数が多かったです。

日本では緑茶と言いますが、シンガポールではグリーンティーといい、味もちょっと違います。緑茶は苦味がありますが、グリーンティーは少し苦味が少なかったです。

City

日本では道路の上にイルミネーションはありませんが、シンガポールではクラゲなど色々な模様が飾ってありました。クリスマスだったからかもしれません。どこへ行ってもイルミネーションだらけでした。

日本と違ってクリスマスツリーが、何倍もあり、とても綺麗でした。

マリーナベイサンズのライト・ショーはとても綺麗で、しかも何回も時間をおいて開催されていました。

街にはゴミがほぼなかったけれど、私が見た感じでは目立たないところにゴミがたくさんありました。日本ではゴミを捨てたあと手を洗いますが、シンガポールではウエットティッシュで手と口を拭いていました。

City

日本はコンクリートが多いですが、シンガポールはコンクリートではなく、道路もツルツルのところが多かったです。車道はコンクリートでも、歩道やショッピングモールはツルツル。不思議でした。

ガーデンバイザベイに行って、森がなぜ多いか聞いたら、シンガポールには自然が少ないので、自然をイメージしたものを多く作ったとのことでした。それを見て、日本はこんな大きなドームで自然をイメージしたイルミーネーションはないので、シンガポールはお金持ちだと感じました。

Memories – People & Landscape

（12月28日　スーパーツーリングローブで10SQのみんなと）

（12月29日　ホストファミリーと行ったセントーサケーブルカーからの風景）

Cultural Event

オンラインで太鼓のワークショップを一緒にしたレイさんなど、たくさんの子たちと会いました。

ヒンズー教の寺院の地区へ一緒に行って、買い物をしたり、ご飯を食べたりしました。寺院の中に入った時、私はタンクトップだったので緑のスカーフを着なければいけませんでした。お祈りする時、女性は肌を見せてはいけないのだそうです。女性と男性でそれぞれ決まりがあるので、それに従わないと神様に失礼だということです。

また皆と美術館にも行きました。日本にはない芸術が沢山あり、日本は美術館に行くと絵が主ですが、シンガポールでは子供たちが作った絵や工作がたくさんありびっくりしました。シンガポールの子どもは賢いなと思いました。

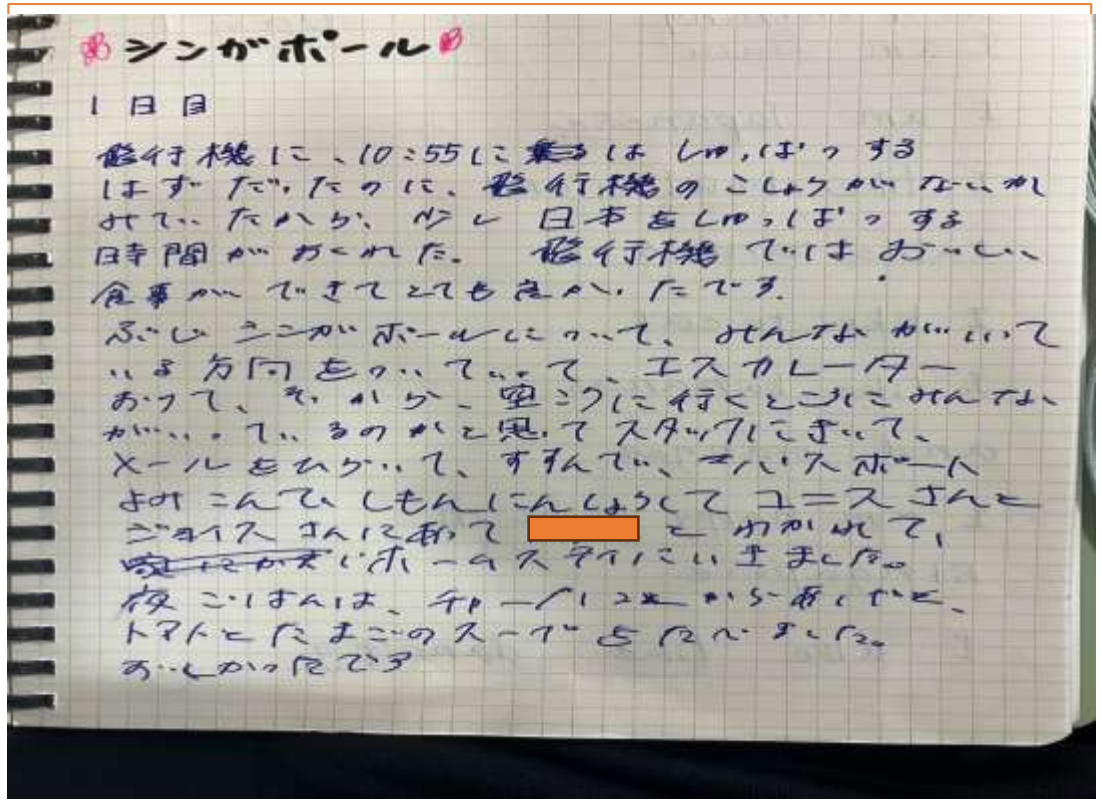
Cultural Event

博物館には色々なおしゃれで面白い作品がいっぱいありました。人が手を挙げたら、試合に勝ったような感じで歓声があがったり、隣の部屋に行くと、手を挙げた人がその部屋のTVに映っていたり、展示が面白かったです。願い事を叶える七夕の短冊のようなものに、Japan Loveと書きました。

リモート交流会をした部屋にも実際にいって、ピアノを弾いたり、踊ったりしました。

Diary

（12月26日　1日目の日記）



シンガポール

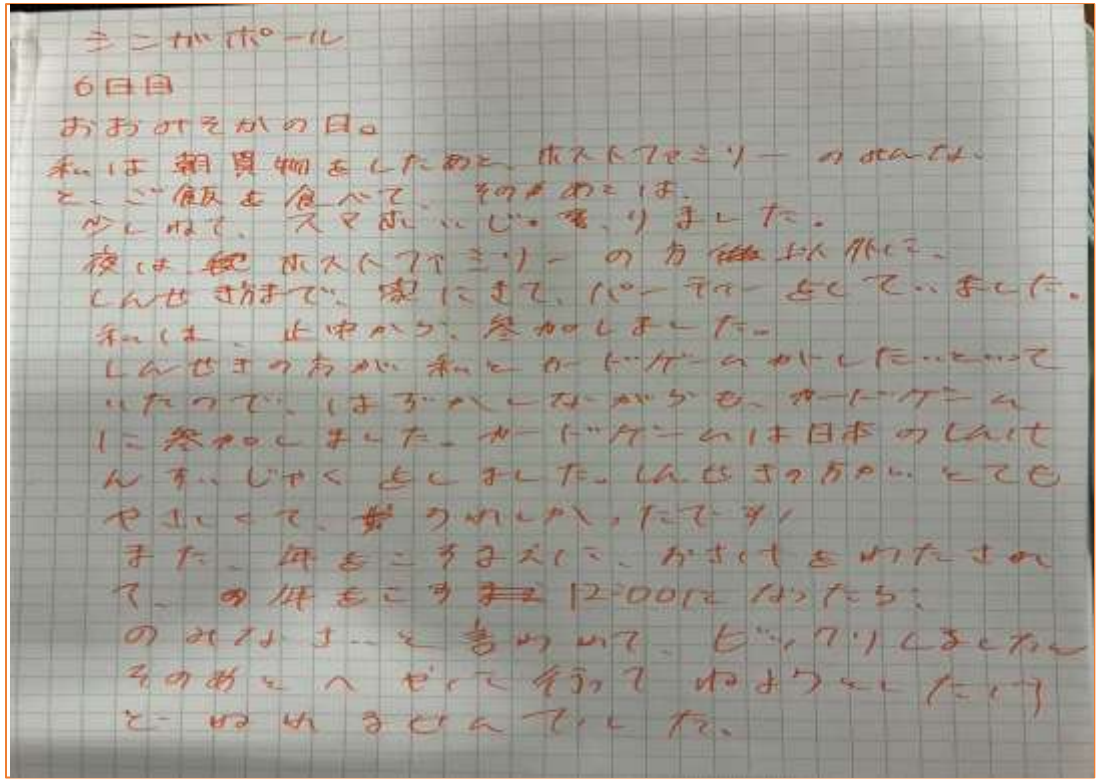
1日目

飛行機に、10:55に~~乗る~~はしゅっぱつするはずだったのに、飛行機のこしょうがなんかしていたから、少し日本をしゅっぱつする時間がおくれた。飛行機ではおいしい食事ができてとてもたのしかったです。

ぶじシンガポールについて、みんながいいほうこうをいっていって、エスカレーターがあって、それから、空こうに行くとこっちにみんながいっているのかと思ってスタッフにきいて、メールをひらいて、すれていくハスポートよりこんていしもんにんしょうしてユニースさんとジョイスさんにあって [redacted] とかかれて、~~[illegible]~~ホームステイにいきました。

夜ごはんは、チャーハンからあげと、トマトとたまごのスープを食べました。おいしかったです

（12月31日　6日目の日記）



シンガポール

6日目

おおみそかの日。

私は朝買物をしたあと、ホストファミリーのみんなと、ご飯を食べて、そのあとは、少しねて、スマホいじって、すごしました。

夜は、~~絶~~ホストファミリーの方々以外に、しんせきがまで、家にきて、パーティーをしていました。

私は、途中から、参加しました。

しんせきのおじさんが私とカードゲームがしたいといっていたので、はずかしながらも、カードゲームに参加しました。カードゲームは日本のしんけんすいじゃくをしました。しんせきの方々はとてもやさしくて、楽しかったです。

また、体をこすると、かさけをめったさめて、体をこすると12:00になったら、のみなさんと言いながら、ビックリしました。

そのあと、ベッドに行ってねようとしたけど、ねれませんでした。

About Myself

- シンガポールに行って、自分自身が変わったな、と思うことはありますか。どんなところですか。

あまり自分のお金を使わなくなりました。色々と買ってもらって、欲しいものがなくなりました。これからは将来のためにお金を貯めます。

- シンガポールから帰ってきて、新しく挑戦しようと思うこと、頑張ろうと思うことはありますか。それは、なんですか。

英語。英語を話したいのに英語が通じなかったので、英語を真剣に勉強して次に行った時には英語で話せるようにしたいです。

- シンガポールにまた行きたいと思いますか。なぜですか。

はい。英語で話せなかったので、英語で話せればいいなと思います。また、みんなに会いたいです。

- シンガポール以外の国にも行きたいと思いますか。なぜですか。

韓国。辛いものが好きなので韓国の良い感じの辛さを体験したいし、スイーツも美味しいので食べてみたいです。韓国にはすごく良い人がいるから。韓国は有名なので、一番に行きたいです。その次はシンガポールにまた行きたいです。

For the Next Generation

- 来年以降、聖園にいる他の子にも同じようにシンガポールに行くチャンスがあるといいと思いますか。なぜですか。

思います。今の聖園の子たちは聖園にいるのが嫌だというけれど、海外に子供だけで行って子供だけで過ごすと、聖園への思いが強くなります。また、海外へ行くことを体験するのは良いことで、英語がわからなかった私でも、だんだんわかるようになりました。英語が話せない人でも1週間くらい行くといいと思います。

ホームスティは、いい人ばかりで良かったです。しかも、ホームスティとは「住まわせてもらっている」ことで、ユニスさんに「私は鈴を娘だと思います」と言ってもらい、とても嬉しかったです。

- 次に行くかもしれない子たちにアドバイスをするとしたら、何をアドバイスしますか。なぜですか。

私は1週間もシンガポールにいることがしんどかったのですが、聖園の職員さんや子どもに辛い時に電話をしたら落ち着くこともありました。それから、我慢をしないで、断ることも大事だと感じました。私はちょっと我慢しすぎて、しんどくなって、職員さんや聖園の子どもに電話して気持ちが楽になりましたが、電話が終わるとまたしんどくなってしまったので、我慢をしないことが第一優先です。

私はご飯が美味しいと思えるものと、美味しくないと思うものもあり（美味しいのはチキンライス）、美味しくないものを支払ってもらっていると思うと申し訳なくて、いらないと言えませんでした。

To the Host Family & Supporters

まずホスト・ファミリーの皆さんへ。

私を娘や妹と思ってくださって、とても親切にしてくださり、ありがとうございます。私が買いたいと言ったものを買ってくださって、また私がシンガポールに行ったことによってナイキの靴やプレゼントまでくださって、ありがとうございます。とても嬉しかったです。私のお願い事を聞いてくれてありがとうございます。

３日間一緒に観光してくれた皆さんへ。

私が行きたいところに連れて行ってくれたり、私たちが知らないあるいはわからない英語をわかりやすく翻訳してくれたり、美味しくなかった、あまり得意ではないきのこスープを飲まなかったら察してくれて片付けましょうかと言ってくれたり、一緒にダンスを踊ってくれたり、ご飯を一緒に食べてくれてありがとうございます。

聖園の職員さんへ。

以前にシンガポール大使館に行けなくて、シンガポールへ行きたいと言ったらリトル・クリエイターズがOKしてくれて、それを野際さんや杉原さんがOKしてくれたことに、ありがとうございます。

ご清聴ありがとうございます。

Thank you !

ショートステイ
in Singapore

2023年12月26日～2024年1月2日

聖園子供の家　NPOリトル・クリエイターズ　The RICE

Little Creators

Host Family

「とにかく優しい」

はじめて外国に行くので心配事もあったし怖かったけれど、優しく受け入れてくれた。

「フレンドリー」

ゲームに誘ってくれたり、一緒に買い物をしてくれたり、気軽に話しかけやすくしてくれる。

Food & Drink

ホストファミリーのおうちの近くにあったお店で食べたカヤトーストです。カヤトーストはカヤといわれる植物を煮込みジャムにして、バターと一緒にパンにはさんだものです。シンガポールで有名な食べ物で、軽食としてや、おやつとして食べます。カヤトーストを注文すると、セットで温泉卵がついてきます。

一緒に頼んだ飲み物はコーヒーです。「砂糖を少し入れますか？」と聞かれたので「はい」と答えたら思いのほか、甘くて驚きました。

シンガポールで多くのまれているも見ものは、「MIRO」です。どのお店に行っても大体置いてありました。

家で食べたごはんは基本出前でした。何を食べたいかなど、いろいろなことを聞いてくれたのでおいしく食べることができました。

City

都心部は東京や横浜のように大きなビルが多く、少し都心から離れると住宅街が広がっていました。

大きな建物も大きいだけでなく独特な形をしていたり、土台部分が細かったり、日本にはないものか多くありました。

日本は地震が多くあり、日本では難しい形でもシンガポールでは作ればるので面白いなと感じました。

Memories – People & Landscape

（12月29日　動物園の帰りのバスの中で　10SQのみんなと）

（12月28日　　マリーナベイサンズ）

Cultural Event

みんなオンラインで話した時より元気で、話やすかったです。お互いに何を言ってるのかわからないので、翻訳を使ったりしてお互い話をしていました。こまめに声をかけてくる優しい人たちでした。

Diary

（12月28日　3日目の日記）

10SQの人たちと一緒にマリーナ・サンズ・ベイを見に行きました。たくさん写真を撮ったり、お土産を見たり、ゆっくり過ごした一日でした。クリスマスのイルミネーションがまだ残っていてすごくきれいでした。

（12月30日　5日目の日記）

ホストファミリーのみんなとご飯を食べてからゲームをしました。スマブラやマリオカート、マリオパーティーをしました。初めは緊張していたけれど、やっているうちにうちち解けて楽しくでできました。

About Myself

- シンガポールに行って、自分自身が変わったな、と思うことはありますか。どんなところですか。
  特に大きく変わったところわないけれど、少しは英語の勉強をしとかなきゃなと思うようになりました。

- シンガポールから帰ってきて、新しく挑戦しようと思うこと、頑張ろうと思うことはありますか。それは、なんですか。
  実用的な英語の勉強

- シンガポールにまた行きたいと思いますか。なぜですか。
  行きたいです。
ホストファミリーといた時も10SQの人たちといた時も、とても楽しくていい体験になったからです。

- シンガポール以外の国にも行きたいと思いますか。なぜですか。
  行きたいです。
ほかの日本にはない建物を見いてみたいのといろいろな文化圏の人とかかわってみたいからです。

For the Next Generation

来年以降、聖園にいる他の子にも同じようにシンガポールに行くチャンスがあるといいと思いますか。なぜですか。

いろいろな環境で生活して広い視野で物事を見れるようになると思うからです。

いろいろな経験をしていくことで豊かな発想力や判断ができるようになると思うので、

シンガポールや海外の違う文化の人たち、違う人種の人たちと交流できたほうがいいと思うからです

次に行くかもしれない子たちにアドバイスをするとしたら、何をアドバイスしますか。なぜですか。

「ジェスチャー、顔芸、全身で伝えようとする気持ち」この3つができればなんとかなる！

実際何を言ってるのかわからなくて黙り込むよりしぐさや顔芸なら伝わりやすいからこの3つができればどうにかなりました。

To the Host Family & Supporters

今回のシンガポールホームステイにご協力してくださった皆様、そしてホストファミリーの皆様、リトルクリエイターズ皆様、本当にありがとうございました。施設から海外に行くという今までにないプロジェクトをまかされ、心配事や行った先で大変なことなこともありましたが、皆様のサポートのおかげで無事行ってくることができました。今までにないことであり、初海外、子供だけ、ホームステイ、厳しい条件でしたが、シンガポールにいた時間は、大変貴重でワクワクするものでした。英語もまともにしゃべれない私たちにためにアプリの手配をしてくださったり、前もって詳しい説明をしてくださったり出発の前からも様々なお手伝いをしてくださいました。シンガポールについて、ホストファミリーと合流してからも気遣いをたくさんしてくださったり、気さくに声をかけてくださってありがとうございました。様々な人たちに助けられ実現した今回の旅でした。とても貴重な経験でした。

ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございます。

Thank you !